

2011/05/17

地盤工学委員会

土砂侵食と運搬、堆積に関する学際研究小委員会
H22年度の活動報告とH23年度の活動計画(現況報告)

■H22年度活動報告

- ・「土砂動態学 ～山から深海底までの流砂・漂砂・生態系～」の執筆を進める。
- ・次年度以降の情報発信の場（土木学会全国大会、理論応用力学講演会、日本地球惑星科学連合大会）の準備をすすめる。
- ・小委員会としての外部資金獲得の可能性を模索する。

■H23年度活動予定

(1) 日本地球惑星科学連合大会のセッション運営(5/24)

<http://www.jpgu.org/meeting/>

「堆積・侵食・地形発達ダイナミクスへの学際アプローチ」

代表コンビーナ：成瀬元(千葉大理学部)

共同コンビーナ：武藤鉄司（長崎大学）

横川美和（大阪工業大学）

泉典洋（北海道大学）

松島亘志（筑波大学）

提案母体：日本堆積学会

土木学会地盤工学委員会

スコープ：

地球表層を形成する物質の侵食・移動・堆積と地形形成のダイナミクスの理解を深めるため、工学・農学・物理学・地球科学の垣根を越えて最新の研究成果を披露しあい、異なる視点から地球表層環境プロセスを検討する。実験・理論・観測に基づいて、流体（河川・波浪・土石流・乱泥流・火砕流など）・堆積物・地形の相互作用を扱う幅広い分野の研究発表を歓迎し、地球史の探求のみならず、防災や資源探査の観点からの議論を重視する。

発表件数： 15件

ポスター： 9件

(2) 平成23年度全国大会開催における研究討論会企画

研究討論会タイトル案：「土砂動態学のすすめ：長期国土保全に向けた学際的取り組み」

主題：

地球科学的時間スケールで見た地形・地質形成過程は、一般的に「地学」と呼ばれる分野での研究対象であるが、一方で数年～数百年といった時間スケールでの侵食・運搬・堆積現象は、土木工学の諸分野で多様な問題（山地での土砂侵食や斜面崩壊、平野部での河床変動や海岸侵食、それらに伴う構造物の維持管理問題や環境問題など）を生み出す。これらの課題は、時間軸および空間スケールに対するマルチスケール問題であり、観測等の現状把握がしにくい、力学的モデリングがしにくい、といった困難がある。本研究討論会では、これまで様々な分野で行われてきた取り組みを俯瞰し、今後の学際的な取り組みの方向性について議論する。

3) 座長氏名・所属（予定）：前田健一・名古屋工業大学都市社会工学科

4) 話題提供者氏名・所属（予定、案）

竹門康弘	京都大学防災研究所 水資源環境研究センター
田島芳満	東京大学工学系研究科社会基盤学専攻
成瀬 元	千葉大学理学研究科 地球科学コース
佐々真志	(独) 港湾空港技術研究所地盤・構造部
前田健一	名古屋工業大学都市社会工学科

※先週、企画採択の連絡有り。現在、話題提供者に打診中

※東関東大震災に関する話題（特に津波被害）をどのように組み込むか、議論中

(3) 「土砂動態学 ～山から深海底までの流砂・漂砂・生態系～」の執筆
進行中

(4) 小委員会委員長の代理の件

小委員長の松島が、H23年9月より1年間、英国にサバティカル予定のため、不在期間は前田健一准教授(名古屋工業大学)が代理を務める。